

A. 「投票率向上に効果的な啓発事業」に係る提案

提案番号	提案の具体的な内容	期待される効果
1	<p>【小・中・高校での模擬選挙の充実】</p> <p>①小・中・高校で選挙の期間などを書き込めるカレンダーを設置する。投票日が近くなったら簡単な内容で模擬選挙を行う。模擬選挙の内容は小→中→高で上げていき、高校になればより現実に近いものを扱うようにする。</p> <p>②小中高で本番同様の模擬選挙をし、全国で集計して実際の選挙結果と比較し、意見の相違点を調べる。</p> <p>③若者の投票率が高いスウェーデンでは、「学校選挙」というもので投票方法を学ぶことができるし、模擬投票ではあるが、投票前に、政党についての授業を行うことができるため、自分の意思をもって投票ができる。</p>	<p>①選挙は若者からすると少し難しい、遠いことのように感じてしまいます。小学校のころから選挙の仕組み、方法などを理解しておけば、選挙に対するマイナスのイメージをなくすことが期待される。また、高校などで、現実に近いものを扱うことによって、選挙の考え方も得ることが期待される。</p> <p>②幼いころから政治に触れることで身近なもの実感させると同時に政治家も若い世代の意見を取り入れることができる。</p> <p>③投票に行くとか、政治に関わるという実感が今のままだとわからないと思う。テレビで見ても、難しいことを言っているし、自分には関係ないとも思ってしまうと思うから、このように、政治に身近なものにできたら投票がとても大切なことだと実感できて、政治に関心・興味を持って、投票率が上がると思う。</p>
2	<p>【若者投票率低下による影響の映像化】</p> <p>若者の投票率低下によって、高齢者のための政策ばかりになってしまった世界を描いた映像作品を制作する。</p>	<p>若者も自分が幸せになれる政策を求めていると思うので、投票率が上がると思う。</p>
3	<p>【投票所付近のインスタ映え化】</p> <p>投票所の外に若者が思わず写真を撮ってしまうようなかわいらしいお菓子やおいしい料理の屋台を設置する。</p>	<p>コロナ禍で売り上げがのびなくなった飲食店を助けるとともに、インスタ映えを求めている若者をたくさん集める。「#投票」などをつける若者が多くなることが期待される。</p>
4	<p>【若者同士のディスカッションの配信】</p> <p>若者を発信する立場に置くために、若者同士でのディスカッションを動画配信する。その広報を学校で配布し、動画を見たうえで、授業などでディスカッションを行う。さらに広報を投票所入場券と併せて有権者に郵送する。</p>	<p>YouTubeなど動画に日ごろから触れる機会が多いので、広報だけよりも、動画の方が親しみやすく、政治に興味を持つようになる。また、動画の内容が若者主体なので、身近に感じることができる。それを学校で取り入れると、今まで関心のなかった人も興味をもつきっかけとなる。</p>
5	<p>【候補者のドキュメンタリーの制作】</p> <p>投票率を向上させるためには、選挙や政治に興味をもってもらう必要がある。そのため、立候補者一人一人の立候補してから当選・落選までのドキュメンタリーを作成する。それにより、選挙運動、普段している仕事の大変さ、その中にあるやりがいを知ることができる。</p> <p>より多くの人に見てもらうために土日の夜8、9時ごろに全国で放送する他、YouTubeでも配信をする。テレビでは30分～1時間で放送し、YouTubeは10分程度に収め、飽きずに気軽に空いた時間で見てもらえるようにして、たくさんの人に見てもらいたい。どうしても選挙や政治に対して堅苦しいイメージがあるので、できるだけ簡単な言葉で楽しく学びながら理解を深めることができる。</p> <p>そして、より堅苦しさをなくすため、YouTubeの動画のサムネイルを選挙や立候補者のことを一目見ただけで判断でき、なおかつ面白さ、楽しさが伝わってくるデザインにすることが重要です。テレビではCMや予告を作り、YouTubeでも広告を入れて最大限にメディアを利用し、視聴率を上げる。</p>	<p>近年オーディション番組を見る人が増えている。それは、頑張っている人の苦勞などの裏側を知り、自分の生きる活力になり応援して、自分の応援している子をデビューさせたいという思いが生まれるからです。オーディション番組では投票が命取りになることもあるので、ファンたちは一致団結して一緒に頑張ります。それらのことをドキュメンタリーでも取り入れ、立候補者の中から推しを見つけ、当選できるように投票する人も、努力して家族や友人の中で共有してみんなで盛り上げる形を作れたらいいと思います。</p> <p>そして毎回ドキュメンタリーを視聴した後にオンラインで投票できるようにします。わざわざ出歩かなくても、いつでもどこでも自分の好きなタイミングで投票できるようにすればいいと思います。スマホを持っていない人はテレビのdボタンからでも参加可能とします。これらのをすれば、選挙や政治の知識が増え、自分たちの生活をよりよくするための行動ができているといえます。</p> <p>投票率をあげるだけではなく、ドキュメンタリーを見て自分も立候補したいと思える人が今よりも増えたら、日本はもっと良い国になっていくのではないかと考えます。</p>
6	<p>【選挙費用の公表】</p> <p>選挙にかかる費用を公開し、有権者が投票するためにはいくら必要なのかを周知する。</p>	<p>選挙にいくらの費用がかけられているかを知ることにより、選挙の興味をもってもらい、投票に行こうとする気にさせ、投票率を向上させる。</p>
7	<p>【VRによる投票体験】</p> <p>受付から投票までを体験できるVR投票所を作成し、投票所の雰囲気などを体験してもらう。</p>	<p>投票所の雰囲気や投票するまでをリアルに体験することで、初めて投票所に行く際の不安感などを軽減させ、投票率を向上させる。</p>

B. 「投票環境向上に資する選挙制度の導入」に係る提案

提案番号	提案の具体的な内容	期待される効果
1	【出張無人投票所の設置】 公衆電話ボックスのような簡易な出張無人投票所を多くの場所に設ける。不正防止対策に防犯カメラの設置、二重投票防止のため、事前に配布した証明書がついた専用の投票用紙のみ有効とする。	無人であることから、雰囲気呑まれ緊張することがなくなる。また、人手不足の問題も生じず、投票所を多く目にするようになるため、選挙を身近に感じ、投票に興味や責任感を感じるようになる。
2	【学生による投票事務の従事】 選挙の受付等の事務を高校生や大学生など若い人が行う。	大人の人が受付をするより、同じ年代の人がいることで若い人でも緊張せずに投票に行ける。
3	【選挙運動費用上限額の引き下げ】 候補者が支出できる選挙運動費用の上限を低くする。	選挙運動にかけられる費用の差が各候補者の間で小さくなることで、候補者は政策で違いを出さなければならなくなる。これにより魅力的な候補者が出てくるようになり、投票に行きたくなくなる。
4	【数値化による候補者比較】 全ての立候補者が力を入れていることをパーセントで表し、政策を比較できるようにする。	有権者の視点で、統一された表記にすることで投票率が上がる。また、パーセント表記は政治に興味がない人も分かりやすい。
5	【必達公約による候補者比較】 ミニマムマニフェスト制度 立候補する際に、候補者は任期中に最低限果たすべき公約を発表する。	候補者のやりたいことが分かりやすいため、適当に投票することが減る。現実的な公約を掲げることで、責任感が増し、信頼が生まれる。
6	【共通の質問による候補者比較】 候補者全員に同じ質問をし、その回答をSNSなどで公開する。	候補者の政策等については、選挙公報で知ることができが、同じ課題に対する政策が記載してあることは少ないため、比較しづらく、候補者を選びにくい。そこで、候補者全員に同じ質問をし、その回答をSNSなどで公開することで、政策等を比較しやすくし、候補者を選びやすくすることにより、投票率を向上させる。
7	【コンビニでの不在者投票用紙受領】 コンビニで不在者投票用紙を受領できるようにする。	マイナンバーカードを利用して、コンビニで住民票を受け取ることができるように、不在者投票用の投票用紙を受け取ることができるようにし、不在者投票を利用しやすい環境を整えることにより、投票率を向上させる。